



考源集注



卷九



三又

卷九

老娘茶派卷九

目錄

- 一 小年蘇子紙
- 一 大前夜真法
- 一 瑞光純子
- 一 中江の法
- 一 亦中の可格
- 一 刀の目利
- 一 圓山候名言



老媪茶作巻一

八重葎の色紙

是良朝臣の小倉山山庄の色紙は百人一首哉
大紙一一枚一着了去〜陽子のた〜れ
た〜〜〜〜後人乞とみ中枚一屏風に
押たり〜〜〜一夏の焼炙〜〜油と〜〜茶
枚法家に散せ〜〜〜にま〜〜〜
焼炙〜〜〜せふあるや二三十枚に〜〜〜
〜〜〜何む〜〜〜一巻一着茶金一枚〜〜〜

やせ——今いふと此の信増せ——ちり業を
この——人の柳の——して座とに與——
路ふとちり——いも成や業いよこも流
りや——とを——境の高人々
馬きぬの八主藤ふい——家名の所出——
と——の——茶會催——
信鶴我主——に好——秋なる
信鶴そのあつりり家治り入人——
信人——に——我——
主人のあはれあはれ小余のあはれ小余むく

の——あつりり家治り入人——
と——の——茶會催——
信鶴我主——に好——秋なる
信鶴そのあつりり家治り入人——
信人——に——我——
主人のあはれあはれ小余のあはれ小余むく

書ありし書の本陣より一歩も後進をたす
業と一歩も後進をたす八月十日
月二十日の時ある長床代射人
この時一歩も後進をたす
一歩も後進をたす八月十日
ある長床代射人
一歩も後進をたす八月十日
ある長床代射人
一歩も後進をたす八月十日
ある長床代射人

事も初に後進をたす八月十日
ある長床代射人
一歩も後進をたす八月十日
ある長床代射人
一歩も後進をたす八月十日
ある長床代射人
一歩も後進をたす八月十日
ある長床代射人
一歩も後進をたす八月十日
ある長床代射人
一歩も後進をたす八月十日
ある長床代射人

のさし月せ——純子の切柄と海老純子——
かよせの人ま——は是なり海老を信人の
や——ど南印稱名寺——然るのまきなり
その稱名寺の住持——海老宗なり——とを
著し年表のせりはら——あ——ひも是は波
海老二の御家——後には年表——とて選信も
や——りし海老を——海老の傳を
かハ天蓋——りまありもの原海老——り
ふ——りし海老——

園山假名言

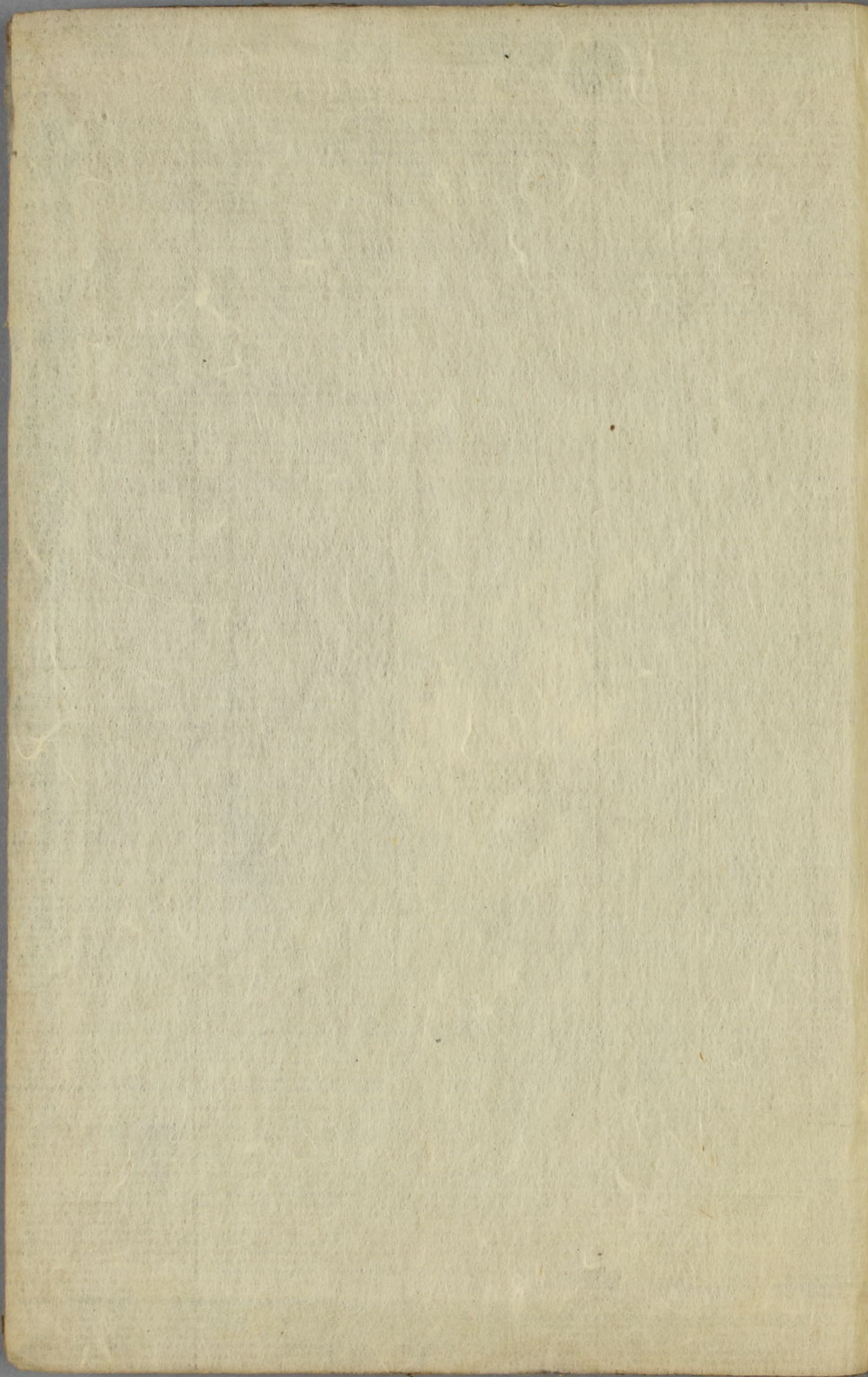
三光大遠の系印の傳ふ——園山假名録——
く世ふ——りし海老——園山假名録——
系印——りし海老——事あり——
河と——りし大遠——りし系印——りし海老——
や——りし海老——りし海老——りし海老——
人ふよ欺世——りし海老——りし海老——
候も——りし海老——りし海老——りし海老——
——りし海老——りし海老——りし海老——

これと見りし其長の智成と云ふ
物と此の字も是等々の字に
利口の邦と云ふと云ふ
町の字もあつて
なりと作らるる

中江の徳

江割小川と云ふ
乃西の字も
官所は、此の古の木の樹と云ふ

一々及樹と云ふ
園山候と云ふ
一々大船と云ふ
館の字もあつて
の事なりと云ふ
西の字もあつて
今ハ初年即ち
此の字もあつて
大船の字もあつて



[Faint, illegible handwriting in cursive script, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]

